ケーブルテレビ等を活用した効果的な健康教育の取組

南小国町教育研究会養護教諭等部会

８人

活動年数：４年

「心に届く保健室からのメッセージを発信しよう」

きよらチャンネル

１本目　歯の健康
２本目　生活習慣
３本目　目の健康
４本目　感染症予防
５本目　メディア





１本目　歯の健康



４本目　生活習慣

2

部会では、「心に届く保健室からのメッセージを発信しよう」をテーマに、関係機関と連携し、特色ある取組を重ねています。南小国町ケーブルテレビ「きよらチャンネル」を活用し、「ウキウキみなちゃん健康教室」の番組収録を続けています。歯の健康、生活習慣など、現在５作目まで放映されています。

南小国町版食育ピクトグラム



3

これは、南小国町版食育ピクトグラムで、動画入りの特大ポスターとなっています。町内小中学校の児童生徒が分担して完成させたもので、ポスターのＱＲコードから、児童生徒出演の動画にアクセスできます。公共施設などにも掲示してあり、学校のホームページからも見ることができます。

薬物乱用防止教室

講師
- 少年鑑別所（R4）
- 向陽台病院（R5）
- 熊本機能病院（R6）
- 税関職員　　（R7）
- 警察職員　　（R8）



就学時健康診断

健康診断関係者
- 学校医、学校歯科医
- 南小国町教育委員会
- 南小国町保健師
- 各小中学校養護教諭





4

次は、「薬物乱用防止教室」です。小学５年生から中学３年生までが一堂に会して毎年実施しています。小学生には、学校薬剤師による事前学習を行い、予備知識を持って参加できるよう配慮しています。また、「就学時健康診断」も三つの小学校が合同で、役場を会場に行うことで、養護教諭以外の職員の負担が全くなく、働き方改革につながっています。

１２歳までの仕上げ磨き

養護教諭による仕上げ磨き
・毎月１回
・各学年曜日を決める
・歯磨き時間後
〇成果
令和７年４月歯科検診結果より
むし歯保有者　10名（34名中）
令和８年４月歯科検診結果より
むし歯保有者　2名（29名中）
むし歯保有者が、令和7年度29％から令和8年度7％に減少した学校もある。
歯科受診率も100％である。



5

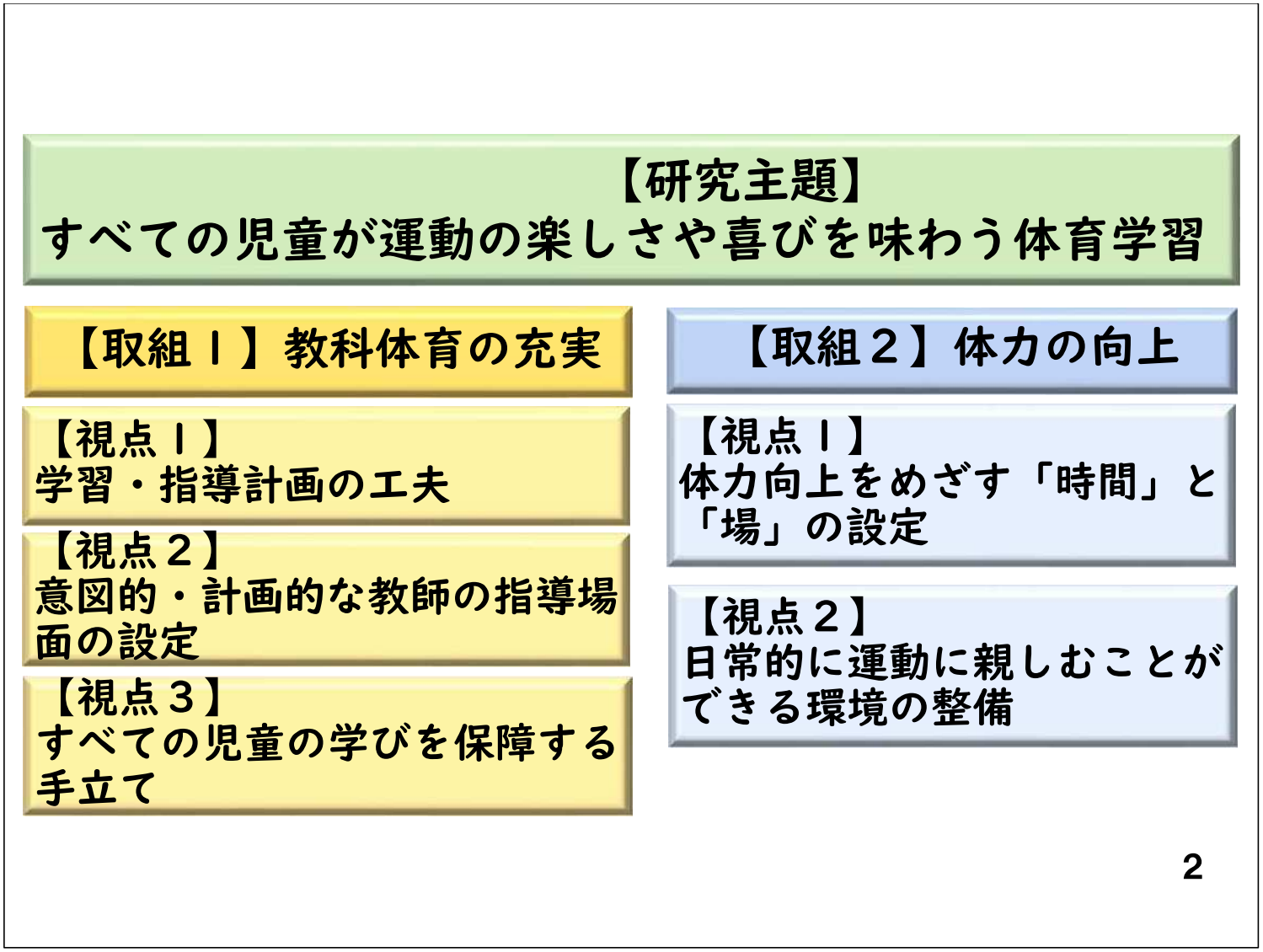
最後は、「１２歳までの仕上げ磨き」によるう歯の減少です。学校歯科医の助言を受け、２校で先行実施したところ、Ａ小学校で２９％から７％へ、Ｂ小学校でも２６％から１６％へ減少しました。以上のように、町ぐるみでベクトルをそろえて、健康教育面での「未来の創り手の育成」に力を入れています。

長年の体育科における優れた実践・研究

御船町立木倉小学校教職員一同

１９人

活動年数：３７年



本校では、研究主題の実現に向けて、「教科体育の充実」を３つの視点で、「体力向上」を２つの視点で取組を行い、実践を重ねてきました。

取組１
視点１ 学習・指導計画の工夫

児童の実態・願い

①身に付けさせたい指導内容の明確化
※学習指導要領、アンケート、教師の思い等

②直接的指導のポイントの整理
※「いつ」「何を」指導するかを計画

③イメージ言葉の予想
※運動のこつやポイントを児童にとってイメージしやすい言葉で想定

④指導計画・評価計画の作成
※学習計画を児童に提示し、単元のゴールの共有

単元終了時の児童の姿

- 笑顔で水泳運動を楽しむ姿
- 友達と高め合う姿
- 技能の伸びを実感する姿



3

取組１の視点１では、児童の実態と願いを出発点にし、それを踏まえて、単元終了時の児童の姿を設定し、「身に付けさせたい指導内容の明確化」「直接的指導のポイントの整理」「イメージの予想」「指導計画・評価計画の作成」の４つの手順を大切にしています。

視点２ 意図的・計画的な教師の指導場面の設定



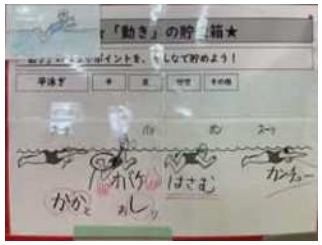
【児童と教師の双方向のやり取り】



【個別指導】



【児童の学び合い】



【発見ボード】

視点３ すべての児童の学びを保障する手立て



【授業導入時のスイッチオンタイム】

だれでもできる
易しい運動

和やかな雰囲気
安心して参加



【教具の工夫】



【教材の工夫】

4

視点２では、教師と児童、双方向のやり取りを大切にしています。また、積極的に個別指導を行ったり、児童同士の学び合う活動を行ったりしています。視点３では、運動が苦手な児童も、すべての児童が安心して授業に参加するために、授業導入時にスイッチオンタイムを位置付けています。その他「教材」や「教具」などの工夫も行っています。

取組２
視点１ 体力向上をめざす時間」と「場」の設定




【全校体育（縦割り班活動）】

視点２ 日常的に運動に親しむことができる環境の整備




【運動コーナーの設置】

【成果】

【児童のアンケート結果（R7.7→R7.12)】 ※数値(%)

アンケート項目	7月	12月
体育の授業は楽しい	９４．３	９５
めあてをもって学習している	８７．５	９０
こつやポイントを考えて運動している	８５	８７．５
全校体育でたくさん体を動かしている	９２．５	９５
体育の授業以外で体を動かしている	８５	９０

【体力テストの結果(R7.5→R7.11)】※T-スコア

種　目 (全校の課題として捉えた種目)	５月	１１月
ソフトボール投げ	４９．１	５１．９
５０m走	４９	５０．３
長座体前屈	４９．５	５４．１

5

取組２の視点１では、異学年で構成する縦割り班で活動する全校体育を設定しています。視点２では、的当てやジャンプタッチの場など、いつでも運動に親しむことができるように校内に運動コーナーを整備しました。これまで、「すべての児童」にこだわりながら全職員で共通理解・共通実践を続けてきました。取組の結果、９割を越える児童が体育の授業や運動に対して肯定的に捉えていますし、学校全体の課題と捉えていた種目においても伸びが見られています。

伝統と実践に裏打ちされた道徳教育研究の推進

上益城郡教科等研究会小中道徳部会

中学校部長嘉島町立嘉島中学校長ほか
小学校部長御船町立七滝中央小学校長ほか

２５人

活動年数：３５年



道徳部会の源は、旧清和村立朝日小学校において平成元年度から３年度まで文部省指定道徳教育推進校の研究発表にさかのぼります。朝日小学校では、道徳の授業展開の発問構成を中心に研究し、独自の道徳の授業の指導過程を生み出しました。道徳部会には当時の朝日小学校教員が事務局等で所属しており、道徳の授業研究会等で牽引役となっています。

令和８年度（２０２６年度）市町村立学校　スーパーティーチャー（熊本県教育委員会HPより）

巡回型スーパーティーチャー

県央・天草	宇城	宇城市立当尾小学校	日方　恵美子	R4	算数	ｐ６
	上益城	甲佐町立乙女小学校	赤星　桂子	R1	道徳・学級経営	ｐ７
	上益城	益城町立広安小学校	原口　順子	R2	英語	ｐ７

拠点校型スーパーティーチャー

県央・天草	宇城	宇土市立花園小学校	丸目　洋一	R8	特別支援教育	ｐ１６
	宇城	宇城市立河江小学校	川端　貴美可	R6	学習全般・学級経営	ｐ１７
	上益城	嘉島町立嘉島西小学校	藤田　沙織	R6	国語・道徳	ｐ１７
	上益城	甲佐町立龍野小学校	五反田　美智乃	R7	算数・道徳	ｐ１８
	天草	苓北町立富岡小学校	櫻井　裕子	R4	道徳	ｐ１８
	天草	天草市立本渡東小学校	海内　留美子	R7	学習全般	ｐ１９
	天草	天草市立佐伊津小学校	野島　あんぬ	R5	特別支援教育	ｐ１９
	天草	天草市立亀川小学校	山口　直美	R6	学級経営・特別活動	ｐ２０
	天草	苓北町立坂瀬川小学校	桑畑　幸子	R7	道徳	ｐ２０

3

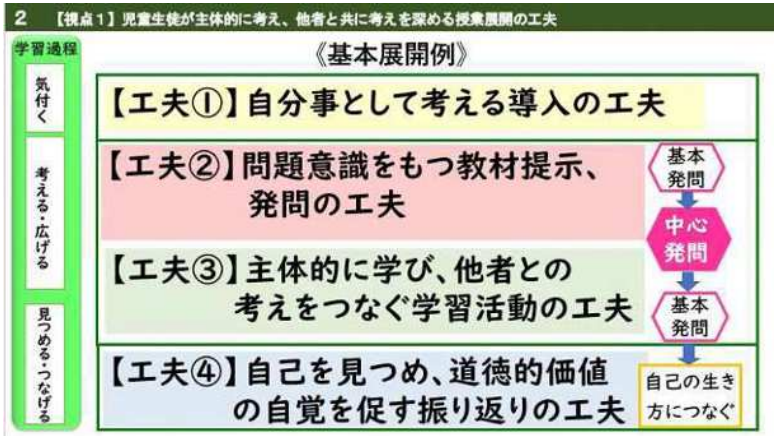
その結果、道徳教育に関する人材が育ち、道徳部会には現在３名のスーパーティーチャーが所属しており、県主催の道徳教育パワーアップ地区別研修会での模擬授業や各学校の校内研修の講師として活躍しています。

令和６年度（２０２４年度）

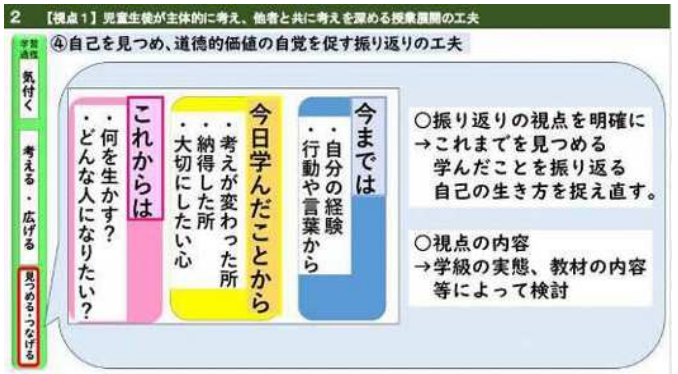
熊本県道徳教育研究大会（上益城大会）

研 究 主 題

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める道徳科授業の創造







4

令和６年度には、甲佐小学校・甲佐中学校において、県道徳教育研究大会が開催され、道徳部会員が主となって授業研究の推進役を務め、全体会で研究についてプレゼンテーションを行いました。

自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める道徳科授業





道徳科授業の学習過程



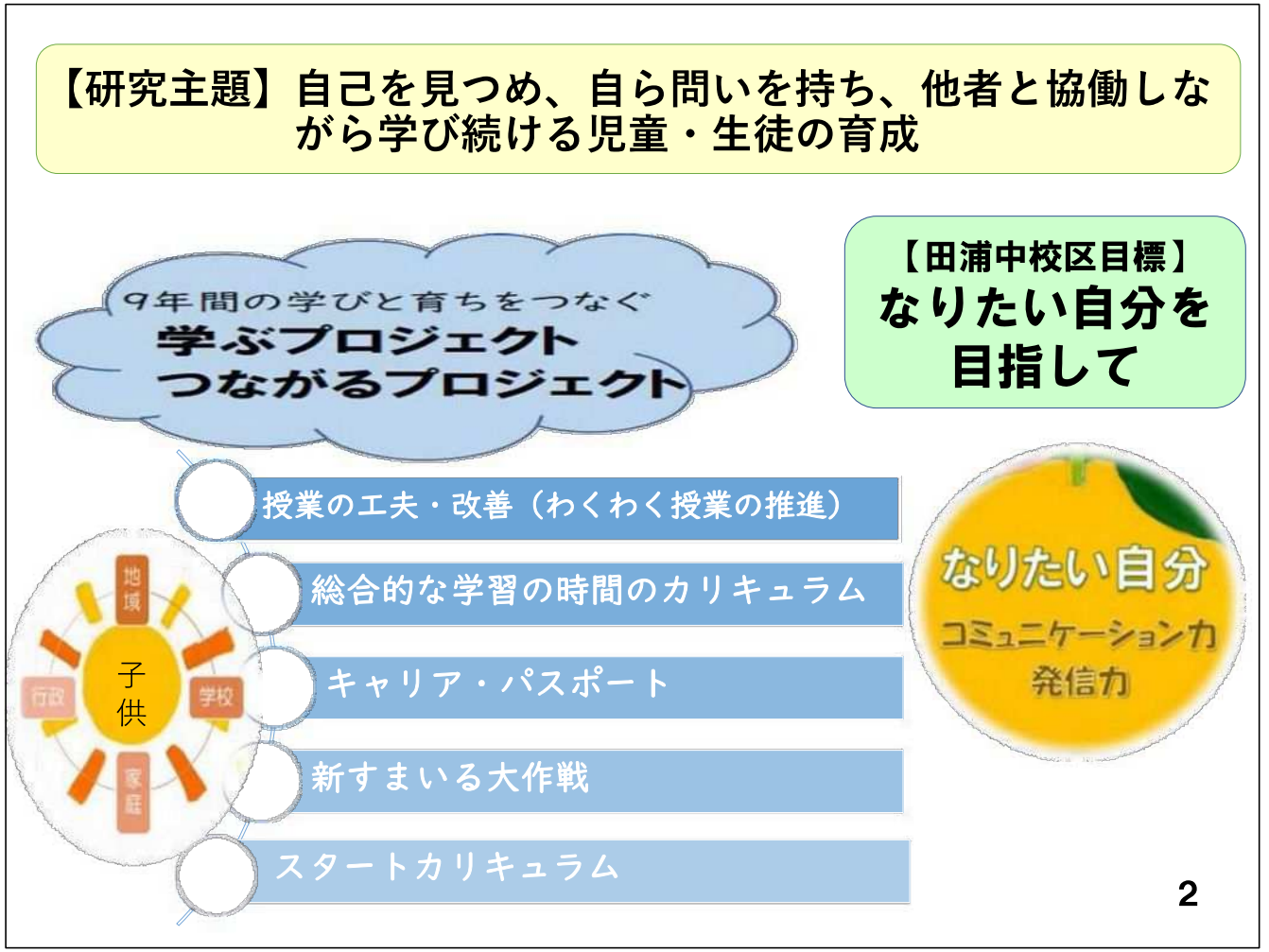
道徳部会が長年培ってきた「自己を見つめ、自己の生き方について考えを深める道徳科授業の学習過程」について提案しました。提案授業では、低学年、中学年、高学年、中学校に分かれて何度も事前研究会を行い、よりよい授業になるよう助言・指導を行いました。当日は公開授業、授業意見交流会、分科会を行い、参加職員の道徳の授業力アップに大きく貢献しました。

小中連携の取組をとおした授業改善

芦北町立田浦小・中学校教職員一同

３８人

活動年数：３年



田浦小中学校では、以前から「９年間の学びと育ちをつなぐ小中連携」を意識した取組を行ってきました。令和６・７年度に、県の指定校事業を受け、中学校での目標を「なりたい自分を目指して」と定め、家庭や地域とも連携しながら、「学ぶプロジェクト」「つながるプロジェクト」という二つの柱を中心に据え、研究を進めてきました。



授業の工夫・改善を目指し、問から振り返りまでを体系化した小・中共通学習スタイル「田浦小・中学校わくわく学習スタイル」を導入しました。この「あ・ま・な・つ」に基づいて取り組んでいくことで、小中合同での授業研究会においても、より深まりのある協議を行うことができています。



９年間の学びをキャリア教育の視点で捉え、中学校卒業までを見通した総合的な学習の時間等のカリキュラムを作成しました。小学校の生活科も含め中学校卒業までに育成を目指す、資質・能力を系統表にすることで、９年間のつながりが明確になり、見通しをもった指導を行うことができています。



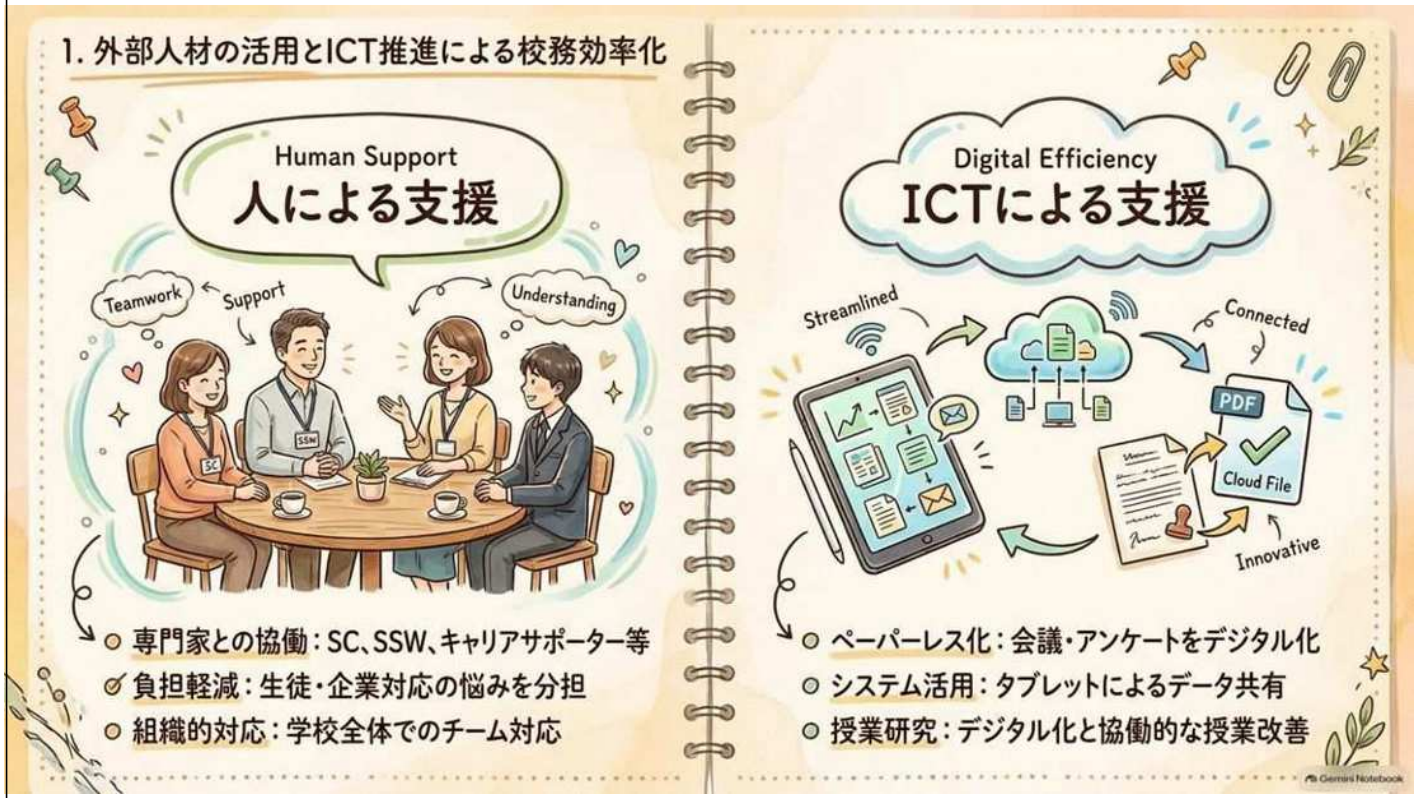
保育園と小学校、小学校と中学校をつなぐためのスタートカリキュラムの作成にも取り組みました。このことにより、小一だけではなく、中一ギャップの緩和にもつながりました。今後も、小中連携しながら、家庭・地域とともに、９年間の学びを意識した取組を推進していきます。

働き方改革の推進

熊本県立鹿本農業高等学校教職員一同

５６人

活動年数：２年

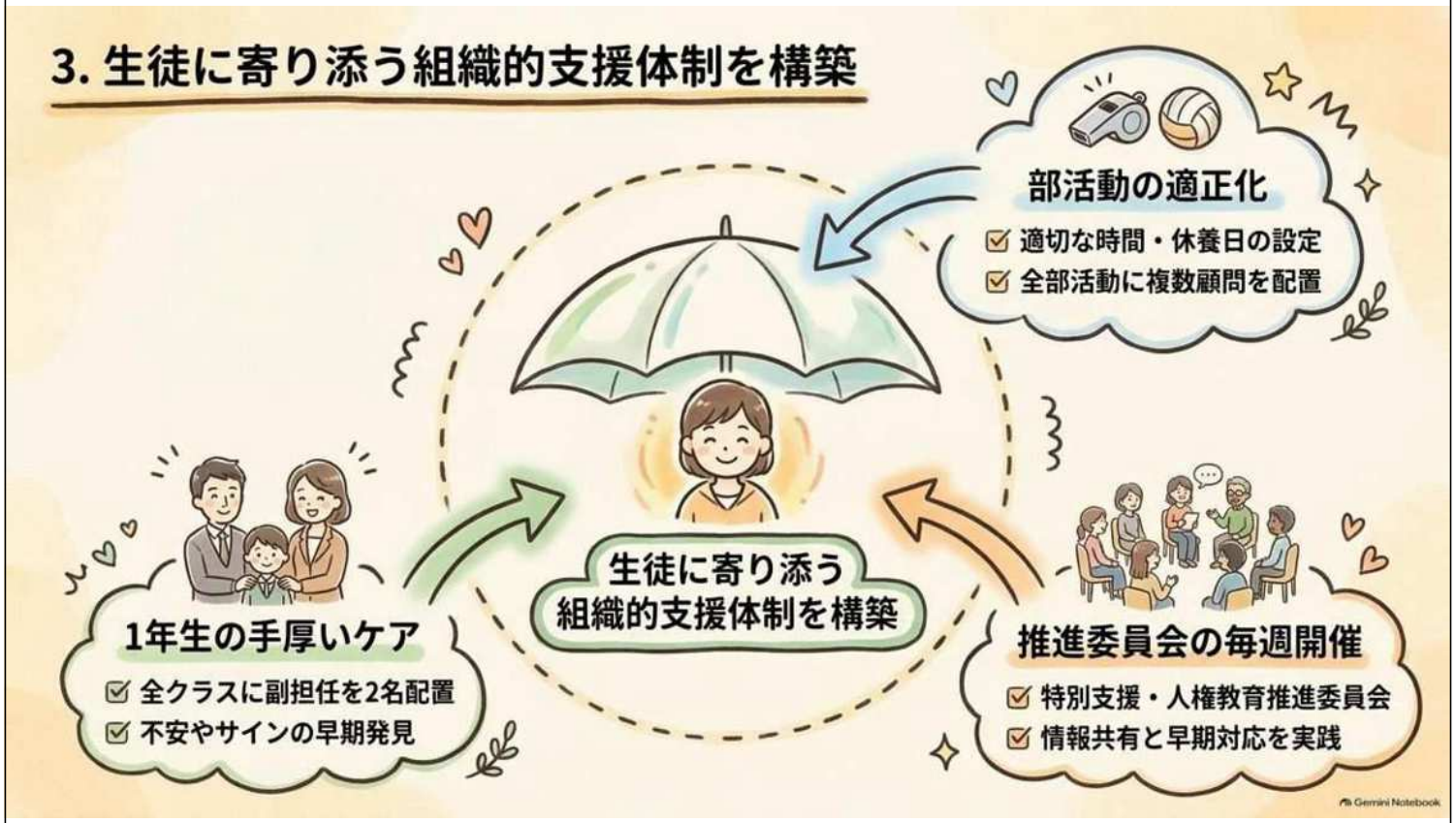


2

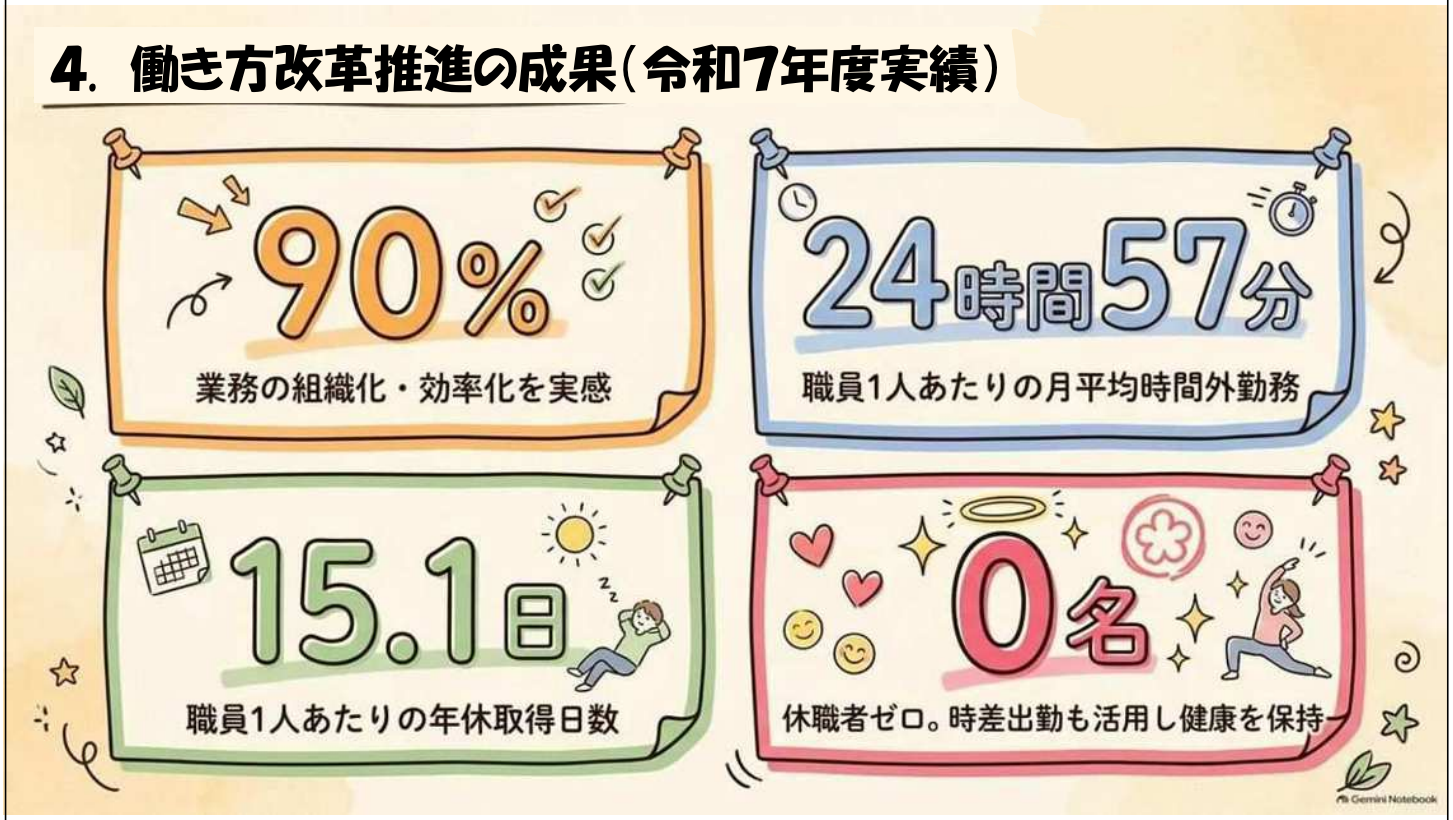
鹿本農業高校は、健康で働きやすい職場環境の整備に向けて、外部専門家との協働により、生徒対応・企業対応・ICT活用の課題を組織的に支援することで、精神的・事務的負担を軽減しました。併せて、情報セキュリティ研修やICT活用研修を定期的に実施し、会議資料やアンケートのペーパレス化、教育のデジタル化を進め、授業改善を推進しました。



毎週水曜日を定時退勤日、会議の集約日、部活動休養日として固定化しました。さらに、職員研修の長期休業中への集約、教員業務支援員の活用により放課後時間の確保を促進しました。校務分掌や担任業務を組織として対応することで、教職員がライフスタイルに応じた柔軟な働き方を選択できる環境を整えました。



生徒に寄り添う支援体制として、すべての部活動への複数顧問配置や、不安定になりがちな１年生全クラスへの副担任２名配置、そして毎週の各種推進委員会を通じて、気になる生徒のサインを早期に発見し、学校全体で迅速に対応できる体制を整えました。



取組の結果、学校評価アンケートでは教職員の９割が「働き方改革が実践されている」と回答しました。令和７年度の時間外勤務は１人当たり月平均２４時間５７分、年休取得は平均１５．１日となり、時差出勤取得者も８名に増加しました。さらに、休職者は０名であり、教職員の満足度、健康、意欲の向上につながりました。